

## 2008年シーズンから大阪本拠地に一本化 オリックス・バファローズ

**Buffaloes**  
ORIX Baseball Club



### パ・リーグ最速4500勝達成

オリックス・バファローズは、2005年から07年まで、大阪府と兵庫県をダブルフランチャイズとしていたが、2008年シーズンから本拠地を大阪府に一本化した。現在、唯一大阪を本拠地にするプロ野球球団である。

そのオリックスが、さる6月3日のセ・パ交流戦で巨人を8-3で下し、前身の阪急軍時代から数えて通算4500勝を達成した。巨人の5087勝、阪神の4512勝（ともに6月3日現在）に次ぐ記録で、パ・リーグでは最速の達成となる。

### 関西のプロ野球人気を支える

オリックス・バファローズのルーツは、今から72年前、1936年の阪急職業野球団に遡る。阪急は、巨人、大阪タイガース、名古屋、セネターズ、大東京、金鯱（きんこ）とともに、日本のプロ野球をスタートさせた7球団のうちの一つ。オーナーの小林一三・阪急電鉄社長（当時）は、選手たちに「諸君の手で日本一強いチームを作ってくれ。タイガースには絶対負けるな」と檄を飛ばしたという。阪急の宿敵は阪神だったのである。

阪急ブレーブスとなってからは、近鉄バファローズや南海ホークスとともに、関西におけるプロ野球の存在を全国に知らしめてきた。1967年以降、名将・西本幸雄監督や上田利治監督のもと、山田久志、福本豊、加藤英司といったスタープレーヤーが活躍し、リーグ優勝12回、日本一4回を達成。真の「勇者（ブレーブス）」と讃えられた。そして1989年、阪急はオリックスに球団を譲渡し、通算3252勝の戦歴を残して53年の歴史を閉じた。

### 歴史を大切に

オリックス・ブルーウェーブとなってからは本拠地を神戸に移し、仰木彬監督（1994年着任）のもと、イチローフィーバーが野球界を席卷。95年の阪神・淡路大震災後は、「がんばろうKOBE」を合言葉に戦いに挑むなど、オリックスの活躍はスポーツ界にとどまらず社会現象にまでなった。そうして迎えた2004年、オリックスは近鉄バファローズと合併。現在のオリックス・バファローズとなった。4500勝目の指揮官は、現役時代に阪急・福本選手の連続盗塁王を13年で止め、「近鉄史上最高の一番打者」と謳われた大石大二郎監督代行。元近鉄ファンにとっては、この4500勝を複雑な思いで讃えたであろうが、それは元阪急ファンにしても同じであったろう。

「阪急ブレーブス、オリックス・ブルーウェーブ、そして大阪近鉄バファローズ、それぞれの歴史を大切にしたいと思います。そして、これからは大阪の球団として、オリックスが大阪にいてくれて良かったと思っていただけるよう活動していきたい」と話すのは、オリックス野球クラブ（株）の外賀 篤さん（営業開発グループ）。

現在、オリックスは、ガンバ大阪やセレッソ大阪（サッカー）、近鉄ライナーズ（ラグビー）、サントリーサンバーズ（バレーボール）などの在阪スポーツ団体とともに、大阪府と進める『大阪スポーツ王国』事業に参画。大阪府民デーに府民の観戦を優待したり、少年野球教室の開講や地元商店街へのマスコット派遣を行うなど、地元への浸透機会を増やしている。そして何より求められているのが“強いオリックス”。かつて阪急、近鉄、南海のチームが大阪に活気をもたらしていたように、その活躍に大きな期待がかけられている。

4500勝を達成して喜ぶオリックス選手  
写真提供：オリックス野球クラブ（株）

